

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-11C	13-073	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Cancer incidence and mortality due to alcohol: an analysis of 10-year data. アルコールに起因するがん発症率、がん死亡率 10年間の検討		
執筆者		
Laffoy M, McCarthy T, Mullen L, Byrne D, Martin J.		
掲載誌		
Ir Med J. 2013 Nov-Dec;106(10):294-7.		
キーワード		PMID
アルコール、飲酒、がん発症率、がん死亡率、推移		24579406
要 旨		
<p>目的： アルコール摂取量は上気道のがん、上部消化管のがん、肝臓がん、結腸がん、直腸がん、女性の乳がん、膵臓がんと因果関係がある。アルコールとがんの量反応関係はそれぞれの部位により異なる。我々はアイルランドにおける10年間のアルコールに起因するがん発生率と死亡率を計算した。</p> <p>方法： 我々はアイルランドにおける10年間のアルコールに起因するがん発生率と死亡率をアルコールの寄与危険割合を用いて算出した。アルコールの寄与危険割合は飲酒率と部位別のがん発症または死亡のオッズ比を用いて算出した。</p> <p>結果： 2001年から2010年の間、アルコールに起因する進行がんの診断は、男性4,585名(4.7%)、女性4,593名(4.2%)であった。最も大きいリスクは男性の上気道、上部消化管のがんで、男性は2,961名(52.9%)が、女性は866名(35.2%)がアルコールに起因するものであった。2001年から2010年の間、男性のがん死亡1,700名(4.6%)、女性のがん死亡2,823名(6.7%)がアルコールに起因するものであった。毎年、がん新規発症は900名、がん死亡は500名が、アルコールに起因するものであった。</p> <p>結論： アルコールは喫煙、肥満と身体活動不足に続き、がんの主要な原因である。アルコールの危険性について、国民の認識を高める必要がある。アルコールに起因するがんの2分の1以上が、衛生局のアルコールガイドラインを遵守することで予防可能である。</p>		